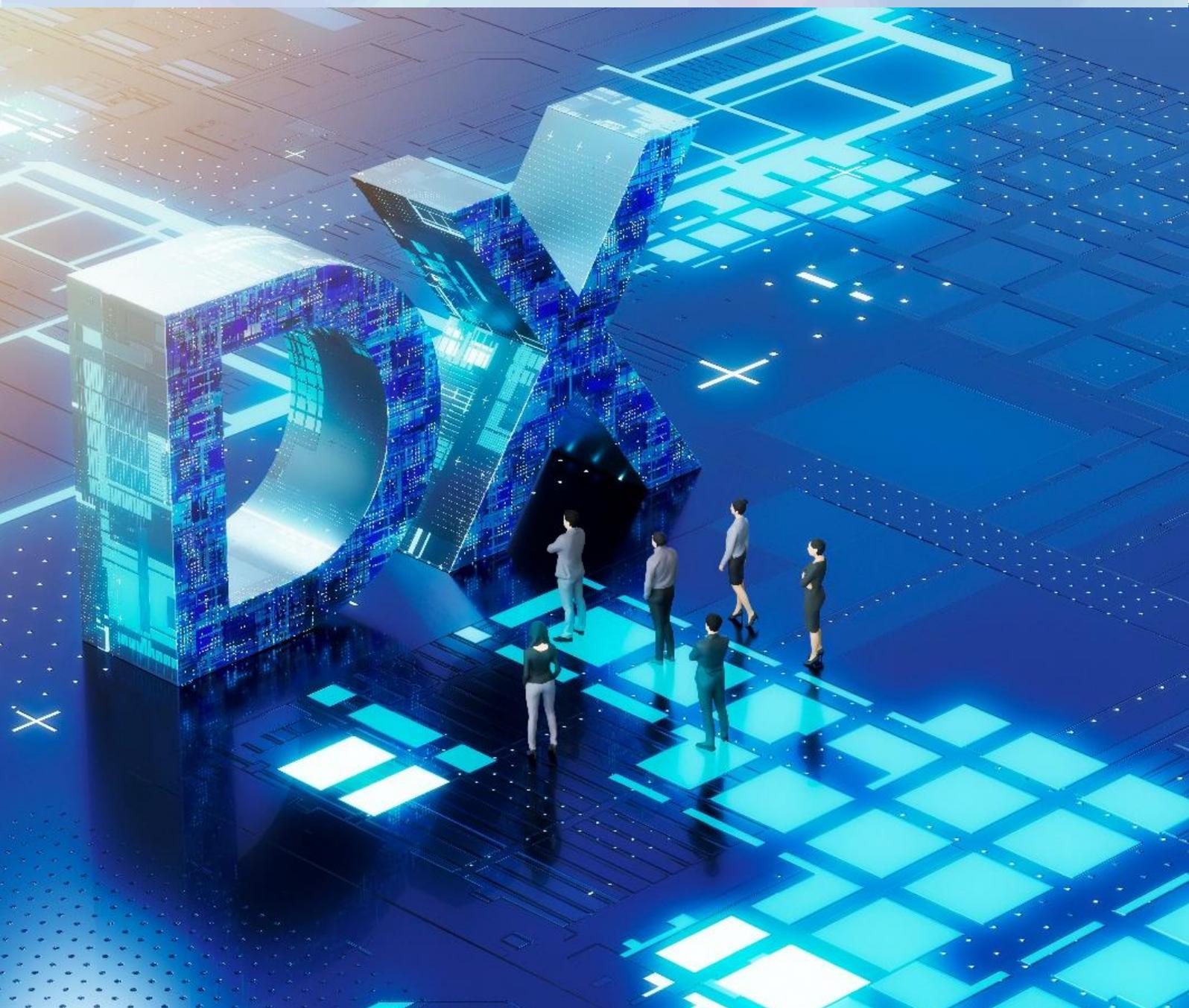


パッケージ導入、サービス導入、  
単独では成果が上がらない！

# DX実現に向けた次の一手とは



# パッケージ導入、サービス導入、単独では成果が上がらない！ DX実現に向けた次の一手とは

## BPMプラットフォームで個別のパッケージ、サービスを連携させて相乗効果

DX 推進というトレンドの中で、デジタル化を進めたものの、まとまった成果が上がらず行き詰まりを感じていたり、次に目指すべき方向性を見いだせずにいる企業は多い。これを解消する DX 推進のための次の一手に迫る。

デジタル技術の発展に伴い、様々なデジタル技術を取り入れ企業全体の変容（DX）を成し遂げ、企業価値創出・企業競争力向上を目指す企業は多い。例えば、取引先との契約を電子化する電子契約、社内の申請業務を電子化するワークフロー、社内ファイルサーバに自宅からアクセスできるようにするクラウドストレージ、手作業で行っていた作業を自動化する RPA など様々なパッケージ製品や SaaS 型サービスの導入も盛んだ。こうしたアプローチによって、現行業務を部分的に電子化・自動化し、業務効率化を図り、一定の効果はあげられている。しかし、もう一歩先の、本来、DX が目的とする企業価値・企業競争力の向上に至っている企業は少ないのではないだろうか。本稿では、クラウドストレージ（SaaS 型サービス）を例に、DX 実現における課題を考察し、その解決策を提示する。

### クラウドストレージが抱える DX 実現における 2 つの課題

近年、クラウドストレージは SaaS 型サービスとして多くの企業で導入が進んでいる。これまで情報共有に使用されていたファイルサーバに比べ、機能面（全文検索、属性検索、履歴管理など）、運用面（ハードウェア故障、増強など）でメリットを提供できていることも導入が進んだ 1 つの要因と考える。しかし、単なる情報共有のツールとしての活用では、ファイルサーバの域を超えず、DX で目指す企業価値創出・企業競争力向上へつなげていくことは難しい。以下に、DX 実現におけるクラウドストレージの課題を 2 つ提起したい。

#### ①クラウドストレージ活用に関する課題

そもそもクラウドストレージでは、単独で DX を実現するのは難しいものだ。例えば、電子帳簿保存法に対応するため、クラウドストレージ上に保存しているファイルにタイ

ムスタンプ機能が必要となった場合、クラウドストレージ単独では実現できず、他のサービスとの連携が必要になる。

また、社内稟議の補足資料となるファイルがクラウドストレージ上に保管されている場合、起案時の補足資料、決裁後の補足資料など、同一、同名のファイルであっても決裁プロセスの状態に即し、区別して保管しておかねばならない。そういった場合は、社内のワークフローシステム（パッケージ製品）との連携が必要となってくる。

このように、様々なパッケージ製品、サービスを相互に連携させ、機能を補完させながら活用していくことが DX 実現に向けた 1 つ目の課題と考える。

#### ②相互連携の実現に関する課題

次に、クラウドストレージと他のパッケージ製品やサービスとの相互連携という視点で考察する。クラウドストレージも含めた SaaS 型サービスは、独自に連携機能を開発できる環境を提供しており、この環境を使って相互連携を実現することが可能だ。1 つ、2 つの連携機能であれば特に問題にはならないが、DX へ向けて多くのパッケージ製品やサービスと連携する場合は、独自に開発した連携機能が散在することになり、維持・メンテナンスする人材の確保、人材が固定化すれば属人化、人材が確保できなければブラックボックス化などの様々な問題を生んでしまう。この問題に対処することが、DX 実現における 2 つ目の課題と考える。

### Pega Platform™ が DX 実現における課題を 解決できる 3 つの大きな強みとは？

そこで注目したいのが、ローコード、BPM の機能を兼ね備えた「Pega Platform」である。Pega Platform を利用することで、社内の様々な業務プロセスにおいて、適切なパッケージ製品やサービスを連携させ、活用していく

ことができる。こうした連携は、1つのプラットフォーム「Pega Platform」上で実現できるため、連携に関する技術習得は「Pega Platform」に限定され、維持・メンテナンスの人材確保の課題にも対応できる。

Pega Platform の強みは、大きく3つある。

まず、1つ目は、システム連携に強く、業務プロセスを柔軟に管理できることである。Pega Platform は、社内に存在する様々な業務プロセスを定義でき、その業務プロセスを遂行する上で必要なパッケージ製品、サービスをプロセスの一部として取り込み、システム化を進めていくことができる。さらに、Pega Platform でシステム化された業務プロセスは可視化され、業務プロセスのボトルネック、問題点を把握しやすくなり、将来的な業務改善にも効果を発揮する。また、業務プロセスの一部として組み込まれたパッケージ製品やサービスの変更、機能追加などにも柔軟に対応していくことができる。

2つ目は、ローコード開発が行えることだ。一般的な

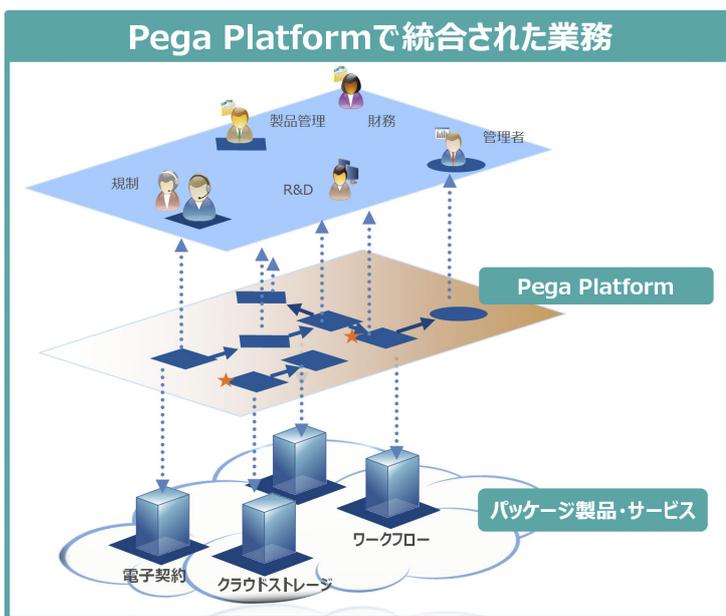
ローコード製品では、業務データをメンテナンスする画面開発など単純な開発に限定されることが多い。しかし、Pega Platform は一定の製品制約の下、画面開発以外にも業務プロセス、システム連携などの複雑な開発をローコードでサポートしている。DX の実現は、単純な画面開発だけでは不可能であり、業務プロセス、システム連携をローコードで開発する機能は、必須と言えるだろう。

3つ目は、ローコード開発に2種類の開発モード（一定の製品制約はあるが習得がたやすい「AppStudio」、業務システムを構築する高度なIT技術をサポートする「DevStudio」）を提供していることだ。DX 実現には、社内業務要件をシステム仕様に落とし込み、具現化する橋渡しの必要な人材が必要となる。しかし、社内業務とシステム、両者のスペシャリストを育成するには時間がかかり、ハードルも高い。そのような問題に対処できるのが「AppStudio」だ。「AppStudio」は、IT 技術に不慣れな人材も容易に習得可能な開発モードである。

しかし、「AppStudio」だけでは、複雑な業務要件には対応できない場合がある。そうしたケースでも、Pega Platform であれば「DevStudio」で対応でき、DX 実現を1つのプラットフォームで賄うことができる。

本稿では、このような強みをもつ Pega Platform と、クラウドストレージ領域において大規模での活用事例が多い Box 社の「box」との連携を提唱している。

日鉄ソリューションズは、日本企業として初めて Pegasystems と戦略的パートナーシップを締結し、Pega 製品の国内向けサポート／一次保証を提供している。豊富な開発経験に裏打ちされた業務知見を備える同社であれば、開発の肝となる業務部門との要件調整においても、これまでの経験を活かした的確なアドバイス・提案も期待できる。



日鉄ソリューションズでは、クラウドストレージ (Box)、電子契約 (CONTRACTHUB)、ワークフロー (AgileWorks) などのソリューションを展開しており、Pega Platform によってパッケージ製品・サービスと連携した統合ソリューションも提供可能だ。このソリューションにより、DX 実現に向けた取り組みを進めていくことができるだろう。

## 日鉄ソリューションズ株式会社

〒105-6417 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー  
お問い合わせ E-mail. [dts-marketing@jp.nssol.nipponsteel.com](mailto:dts-marketing@jp.nssol.nipponsteel.com)  
<https://www.marketing.nssol.nipponsteel.com/>

NS (ロゴ)、NS Solutions、CONTRACTHUB は、日鉄ソリューションズ株式会社の登録商標です。すべての製品名、サービス名、会社名、ロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。